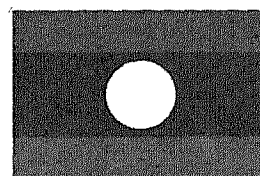


途上国に目を向けよう

～見えないつながりを見つけて～



Laos

横谷 秀幸

あきる野市立東秋留小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：総合的な学習の時間
- 時間数：8時間
- 対象：小学6年生
- 対象人数：36名

〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・途上国の現状に目を向け、様々な課題が見えないところで繋がり合っていることに気付く。
- ・途上国の人々や社会に対する理解を深め、自分たちの課題に基づいて、考えをまとめる。

〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1 2	【ラオスの町と社会】 ラオスの国の現状を知り、途上国に対する疑問をもつ。	・1枚の写真から課題をつかみ、電子紙芝居によって社会の様子を知る。 ・印象的だったことを記入すると共に、課題の間に見られるつながりを探す。 ・キーワードカードを書く。	・パソコン ・プロジェクター ・町の様子の動画 ・ラオスの町の写真
3	【ラオスの子どもと教育】 ラオスの子ども達の生活の様子やその夢を知り、社会環境とのつながりや、教育の課題を気付く。	・1枚の写真から課題をつかみ、ラオスの子どもたちがやっている遊びを体験したり、動画を見たりしながら子どもたちの様子を知る。 ・ラオスの教育が抱える課題を知る。 ・キーワードカードを書く。	・パソコン ・プロジェクター ・CCC(子ども文化センター)や学校の動画 ・ラオスの教科書 ・ラオス語訳された日本の漫画
4	【ラオスの農村とその暮らし】 ラオスの農村部と都市部との暮らしの違いや人々の考え方に触れ、ラオスの社会的課題を気付く。	・1枚の写真から課題をつかみ、動画を見たり、ラオスの工芸品を触ったりしながらラオスの生活の様子を知る。 ・ラオスの農村部に住む人々の考えに触れ、ラオスの社会的な課題に気付く。 ・キーワードカードを書く。	・パソコン ・プロジェクター ・農村の暮らしの動画 ・ラオスの工芸品
5 6	【ラオスの社会を見つめよう】 学習してきたことを元に、ラオスの社会構造図を作る。また、そうなる原因や、自分たちでも出来る支援を考える。	・模造紙にキーワードカードを貼らせ、そのつながりや気付いたことを用紙に書き込む。 ・つながりを文章で記入する。また、文末表現に注意しながら、今後の改善策などを書く。	・今までの学習で使用した写真や工芸品 ・学習の中で作成したキーワードカード ・模造紙
7 8	【発表し、広げよう】 社会構造図の中から見えてきたことを文章にまとめ、発表する。また、自分たちでも出来ることを考え、実施計画を立てる。	・友だちの発表を聞き、更に知りたいこと、調べてみたいことや自分たちにも出来ることを出し合い、意見をまとめる。 ・自分たちでも出来ることを話し合い、発表し、実施するための計画を立てる。	・学習で作成したラオス社会構造図

(3) 授業の詳細

1・2 時限目：【ラオスの町と社会】 ☆知る段階①

導入 ラオス（ルアンパバン）の町並の写真

展開① まず、ラオスの現状を探るため、写真の中から気になることを記入させた。

児童の声

- 自転車は売っているのかな
- 看板がたくさんある
- 何のお店かな？
- バイクが置いてある



ワークシート記入中



気になる所を前で紹介

展開② この写真に隠された5つのラオスの現状に関する電子紙芝居を鑑賞する。

ツアー会社と食品店
A ラオスの町と店

携帯電話の看板
C ラオスと機械化

托鉢の看板
D ラオスと仏教

数台のバイク
B ラオスの交通事情

レンタルサイクルと外国人
E ラオスの観光化

	概要	つかませたい課題
A ラオスの町と店	様々な町の様子。中でもラオスの店の写真を見せる。生肉を外で売っている様子なども見せる。	食料が豊富、不衛生、都市化、果物が多い
B ラオスの交通事情	自動車やバイクが増えている現状を見せ、更に日本車の多さと交通ルールの違いに気付かせる。	バイク、自動車が多い、交通ルール、日本企業
C ラオスと機械化	町の中にあふれる携帯電話会社の看板から、機械化に気付かせ、偽物の存在にも目を向ける。	携帯電話、日本企業、偽ブランド、日本製品
D ラオスと仏教	托鉢から、仏教国であることに気付く。また観光客と物乞いの写真から商業と貧困に目を向けさせる。	観光者、仏教の教え、物乞い、商業化
E ラオスの観光化	観光ガイドの看板や日本食レストランの写真からその観光化を知り、ゴミの増加にも気付かせる。	外国人、日本食、ゴミ増加、海外の影響

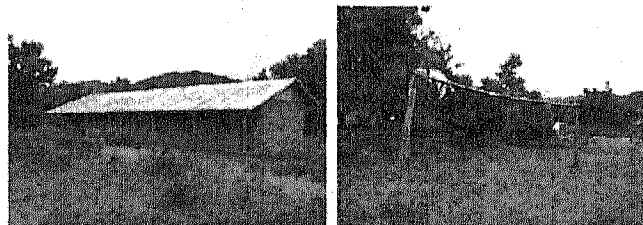
3 時限目：【ラオスの子どもと教育】 ☆知る段階②

導入：写真を見て、何の写真か考える。

児童の声

- ・倉庫
- ・民家
- ・学校
- ・物干し
- ・鉄棒
- ・バレーコート

答え 学校とサッカーゴール



展開① CCC（子ども文化センター）の写真と動画を見て子どもの様子を知る。また、ラオスの遊びを経験する。



遊びの様子写真



日本の遊び（にらめっこ）を紹介



遊びを楽しむ児童と担任

☆ラオスの少年たち（13～20歳）の夢を考える。

児童の声
・農家 ・家のあとをつぐ ・先生

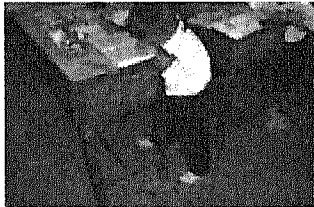
答 え ・教材が欲しい ・貿易関係
・観光会社

⇒海外への夢も持っていることに気付く。

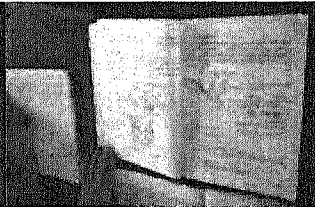


CCCの子どもたち

展開② 小学校の授業の様子や、青年海外協力隊の幼稚園教諭の話から、教育の現状を知る。



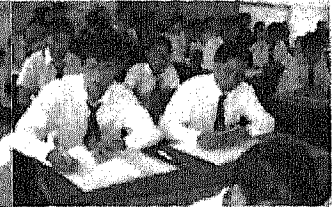
立ったままで授業



教科「身の回りの生活」



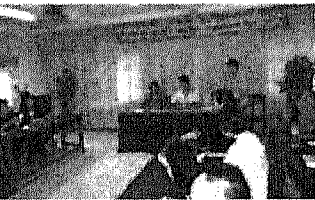
ラオスの教員と談話



勉強する中学校教師



日本の本を読む子供



教育省の方の話



青年海外協力隊員の話

☆ラオスの教育関係者と青年海外協力隊員の思いを考える。

	ラオスの教育関係者	青年海外協力隊員
児童の考え	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強したい ・教室、教材が欲しい ・子供にもっと教えてあげたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の説明書でもあれば… ・もっと人（先生）が欲しい
実際は…	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、教員、教室、教材が欲しい ・お金が足りない ・自分をもっと勉強したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金や物の寄付は要らない（お金は幼稚園に届かず、教材は使える先生が少ない） ・技術のある人の協力が欲しい
ねらい	双方の考えの違いに気付かせたい	

4 時限目：【ラオスの農村とその暮らし】 ☆知る段階③

導 入 この子どもの写真を見て、気付いたことをワークシートに書き込む。

児童の声
・手に何か持っている
・泥だらけ
・サンダルがあるのに裸足
・後ろにいる人が料理をしていそう
・畑仕事をしている



ワークシート記入中



書き込まれたワークシート

答 え ・家族で稲作（田植え）をしに来ている

展開① ラオスの農村の写真や動画から質問の答えと生活や産業の様子を知る。



ラオスの棚田



農村での生活用水とそれを飲む乳児



工芸品を作る様子



働く子ども

☆モン族の村の動画で、子どもたちが何をしていたか考える。

児童の声

- ・仕事をしている
- ・子守をしている
- ・物を売っている

答 え ・物を売っている

⇒子どももみんな働いていることと、その貧しさに気付く。



展開② カム族出身のおじいさんの話を聞く。「10人中7人の子どもが死んだ。足を患っている。」

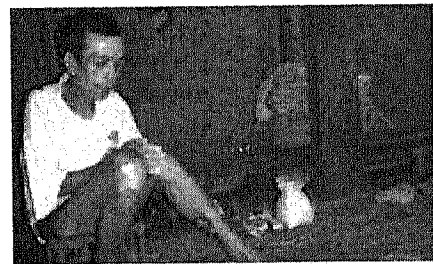
☆おじいさんが「海外に行きたい理由」を考える。

児童の声

- ・一度でいいから海外に行きたい
- ・家族を連れて行ってあげたい
- ・治療したい

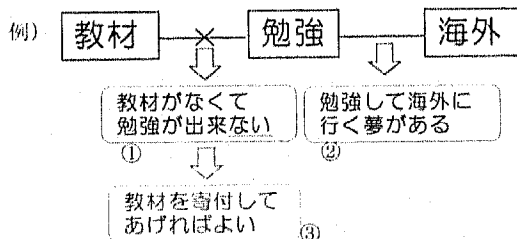
答 え ・足の治療をしたいから

⇒ 医療技術の低さに気付く。



5.6 時限目：【ラオスの社会を見つめよう】 ☆課題をつかみ、解決する段階

今までの学習の中で印象に残ったことをキーワード化して毎回1人3枚書いてきた。そのキーワードを模造紙上でつなぎ合わせ、「ラオス社会構造図」を作り、そこから分かることを探す。

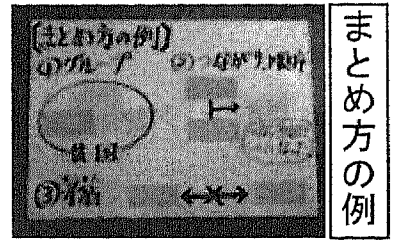


【補 足】

- 授業で見たこと①、②
- 自分たちの発見・考え③
- 文末表現で課題か現状説明かの判断をさせる。
- 課題でなくとも未来予想はできることを指示する。

【構造図作成の過程】

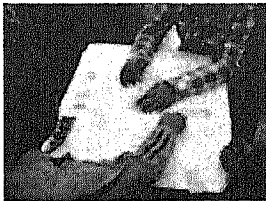
- ①キーワードの分類整理をする。(同じ物をまとめる、似ている物を分別する。)
- ②自分たちが一番興味をもった課題を1つ決め、模造紙の中心に貼る。
- ③中心の課題を元にキーワードを鉛筆でつないだり、まとめたりしながら、どんな理由でつないだのか文章で表記させる。



まとめ方の例

◀キーワードカードの色▶
第1次:ピンク 第2次:黄色 第3次:水色

- 話し合いをしながら作業をし、出てきた意見は文章化。
- いつでも振り返りができるように、前時までの学習資料を全て掲示。



作業の様子



話し合ったことを全て文章で記入



学習資料を掲示しながら

- ④構造図に今後の展望や、支援・改善策など赤色のペンを使って書き込む。



更なるまとめ方

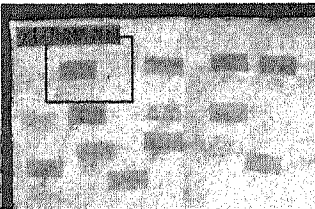
赤ペンを使って

話し合いながら

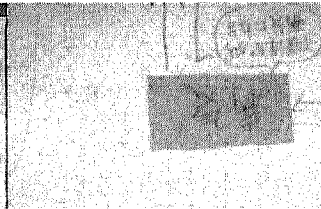
みんなで同時に



つなげ方を紹介



完成した社会構造図

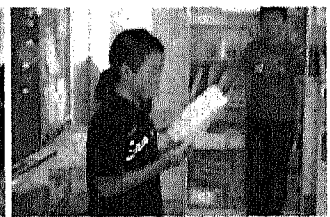
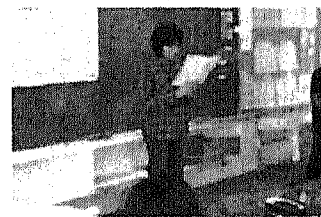


書かれた支援策

- ⑤構造図から読み取れることから、発表原稿を作成する。

7・8 時限目：【発表し、広げよう】 ☆まとめ、広げる段階

- ①原稿作成作業をする。終わった児童は発表の練習。
- ②グループ発表。グループの代表者を決める。
- ③全体発表。構造図を掲示し、その横で発表する。



児童の発表～発表原稿より～

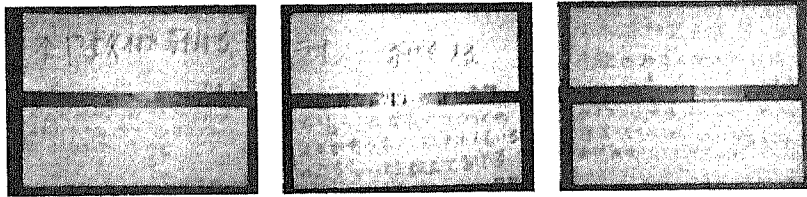
「ぼくは、ラオスの民族と農業に着目しました。なぜかと言うと、この学習の中で民族と農業のつながりに興味をもったからです。そしてぼくはこの学習の中で、大人から子どもまでが協力して農業をしているということを知り、大変だな、ということを感じました。しかし、農業をしていると、食べ物には困らないことも知りました。

他にもいろいろな民族のことで大変だと思っていることはたくさんありますが、中でも一番困っているのではない

かと考えているものがあります。それは学校のことです。なぜかというこの学習の中で、民族の中には言語が違う人や、学校がとても遠い人がいるということを知ったからです。

この学習で学んだことを生かし、貧しい国などに寄付やボランティアをしていきたいです。」

④「自分たちでもできること」「こんな学習につなげたい」という視点で意見を書く。



⇒36名中35名がラオスへの支援を考える。

⑤直接支援はできないので、支援団体を各自調べてくる。(第7時限目終了後、自宅で調べる。)

⑥意見を集約し、課題分布図を作る。

⑦本当に自分たちでできることを話し合う。

⇒募金や寄付をするという意見にまとまる。

⑧児童が調べてきた支援団体とその活動を発表・板書する。



課題分布図

支援団体発表

⑨実際に自分たちに、どんな活動ができるか、どんな活動をしたいかを具体的に話し合う。

児童の声

- 近くに募金箱を置いているスーパーがあるので、行った時に募金をする。
- ラオスの子どもたちは本を読むことが好きだということを学習したので、本を贈ってあげたい。
- いない本を家庭から集めればラオスの子どもたちの団体に本を贈ってもらうことができる。
- SVA (NGO: シャンティ国際ボランティア会) の活動を通して、ラオスの子どもたちのために図書館を作ってあげたい。

⑩授業以外でも実際にボランティアとして活動できることを知り、活動の意志を尋ねる。

⇒クラスの半数以上の希望者が出る。(重複を含む)

〔4〕授業実践を終えて

授業後、学級で話し合い、支援活動の具体策が練られ、イオンと日本ユニセフ協会の共催する「学校建設支援募金」とNGO団体「ラオスのこども」による本の寄贈の活動への参加が決まった。前者に関しては児童会において提案し、全校に向けてユニセフボランティアを募って校内募金をやることになり、後者においては、自分たちで全家庭にむけて本の寄贈の呼びかけをし、それに伴い「ラオスのこども」からシールを購入して寄贈するという計画が立った。実施時期は未定であるが、自分たちでインターネットを調べたり、児童会の担当教師に相談に行ったりと、積極的に下準備を進めているようである。

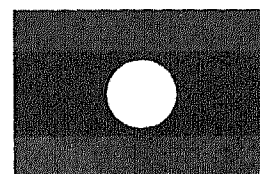
今回の授業では、単なるラオスの紹介に留まらず、支援の実施をしようとする実践力が身についたことが最大の成果であると考えている。担任である私としては、児童たちのその力を学校内だけでなく、今後はいろいろな場面で発揮してほしいと願っている。

〔5〕使用教材

- ラオスの写真：町並み、看板、生活の様子など
- 動画：ラオスでの出来事をDVDにまとめた物
- ラオスの教科書：ラオスの市場で購入
- ラオスの工芸品：ラオスのナイトマーケットなどで購入
- ラオス誤訳された日本のマンガ：ラオスの市場で購入

「幸せ」の定義

- 担当教科：数学
- 実践教科：道徳
- 時間数：4時間
- 対象：中学1年生
- 対象人数：33名



Laos

持丸 博一

目黒学院中学・高等学校

(1) 授業実践のテーマ・目的

- ・ラオスを通して世界に目を向け、多様性を理解する。
- ・発展途上国の生活の様子を、歴史・政治・経済など様々な角度から見て興味・関心を高める。
- ・「幸せ」とは何かを考えることにより、人生観を見つめ直す。

※文化祭でのクラス発表企画を「ラオス」としているため、この授業をもとに文化祭へ向けた準備に役立てることもねらいとした。

(2) 授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【ラオスの知識を深めよう】 ラオスがどんな国に興味・関心を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・政治・経済・文化など10問の4択クイズを出題する。 ・解説しながら、ラオスがどんな国かを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント(ラオスクイズ) ・ラオス国旗 ・ラオス文字 ・ラオス紙幣
2	【ラオスの様子を見てみよう】 ラオスの生活の様子や文化を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や現地の本を見せながら、ラオスの生活の様子や文化を紹介する。 ・グループごとに調べ学習の課題を与える(各6~7名×5グループ。次時までには発表できる状態にしておく)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオス国旗 ・ラオス地図 ・現地語書籍(教科書、ドラえもん) ・スライドショー(PC)
3	【「幸せ」とは?】 ラオス人の幸せの度合いを量る。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見せながら、ラオスの農村地域の様子を紹介する。 ・日本(本校中学1年)とラオス(小学4,5年生)に実施したアンケート結果を発表する。 ・ラオスについて調べてきたことや、個人的に感じたことなどをグループごとに話し合いながら、様々な角度からラオス人の幸せの度合いを量る。 ・グループごとに発表する。 ・合唱コンクール課題曲「この星に生まれて」の歌詞の意味を考えながら歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真(農村) ・カオニャオ ・アンケート結果(日本 v.s. ラオス) ・付箋紙 ・発表用紙(A3×4枚/グループ) ・ポスカ ・CD
4	【「幸せ」になるには?】 幸せになるためにはどうすれば良いかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分だけが幸せになることと、世界中が幸せになることの相違点や矛盾点を感じながら、「幸せ」について自分の考えをまとめて作文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿用紙

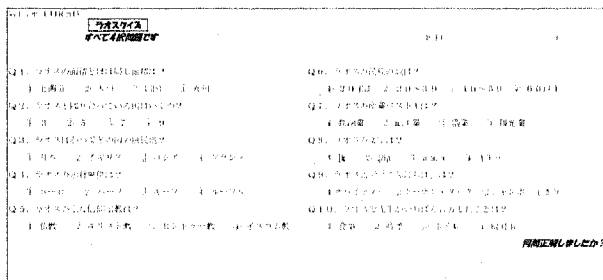
【3】授業の詳細

1 時限目：【ラオスの知識を深めよう】

授業全体の導入として、地理・歴史・文化・産業等のラオスに関するクイズを出題した。解説編では、ラオスの国旗、地図や紙幣を見せながら、生徒たちの好奇心を引き出すことにより、ラオスに興味・関心を持って次時以降の授業に臨めるようにした。

日本と全然違うし、どこにあるかもわからないような国という生徒が大半だったが、例えば、「過半数が仏教徒である」などと解説をするにつれて、徐々に「日本と同じところもあるんだあ」という声が聞こえるようになり、「もっとラオスを知りたい!」という雰囲気になった。

【ラオスクイズ】



2 時限目：【ラオスの様子を見てみよう】

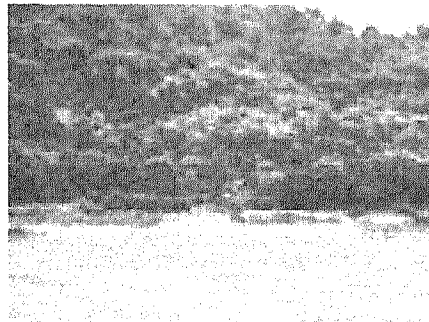
前半では、ラオスの街並みの写真を見せながらラオス人の生活の様子や文化、また、青年海外協力隊員の活躍を紹介したり、現地で調達してきた数学の教科書や「ドラえもん」の単行本などを見せながら、日本とのつながりや相違点を考えさせた。

前時に引き続き、ラオスがより身近に感じられたという生徒が増えた。さらに、今まであまり想像できなかった発展途上国の実態がわかってきた様子も窺えた。

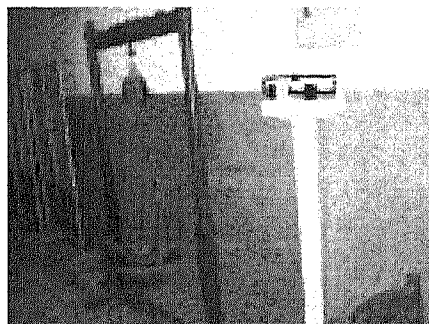
<課題内容(各グループ1項目)>

- ①政治 ②経済 ③教育 ④農業 ⑤医療

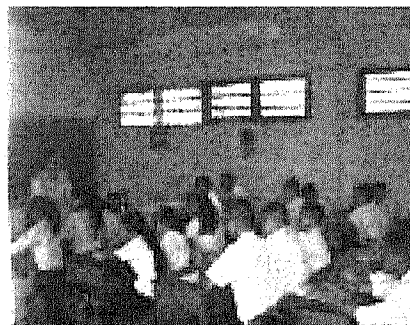
【スライドショー(一部)】



1 メコン川



2 母子保健病院



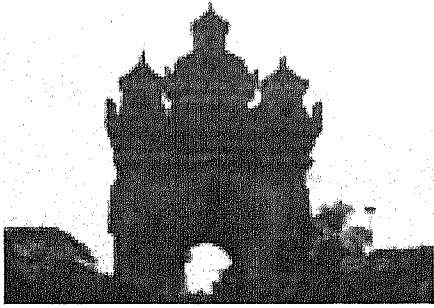
3 中学校授業風景



4 カオソーイ



5 托鉢風景

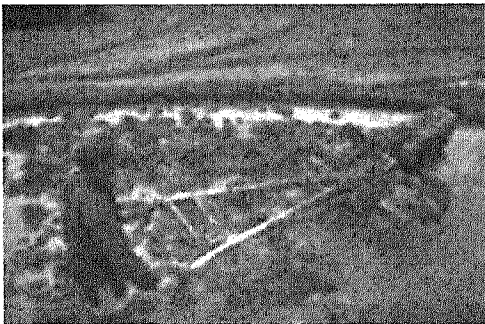


6 凱旋門

3 時限目：【「幸せ」とは？】

本時は前時に決めたグループに分かれて展開した。まず、農村地域の写真を見せた上で、日本とラオスの主食が同じであることを実感できるように、予め用意したラオスのお米（カオニャオ）を生徒に試食させた。

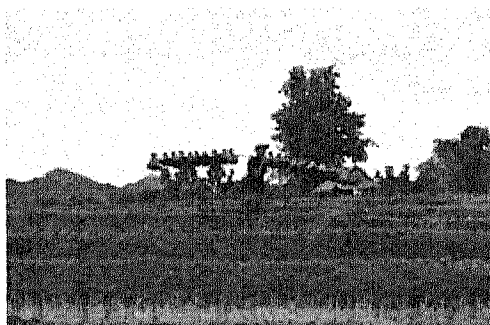
【農村写真】



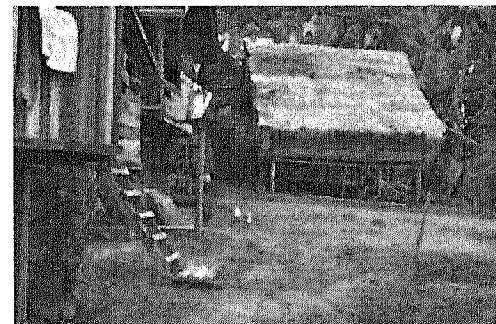
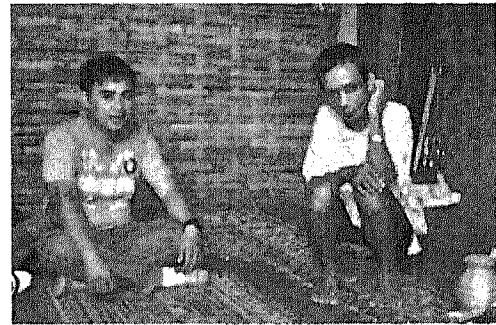
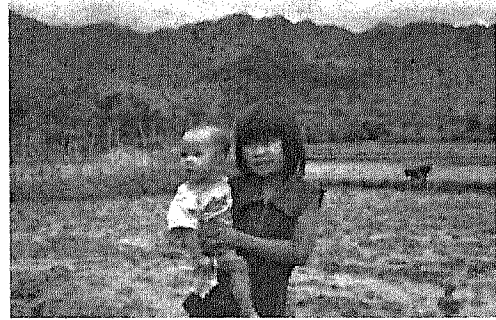
1 耕運機



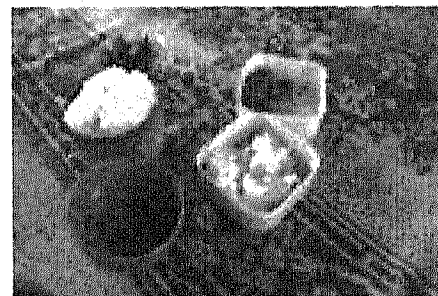
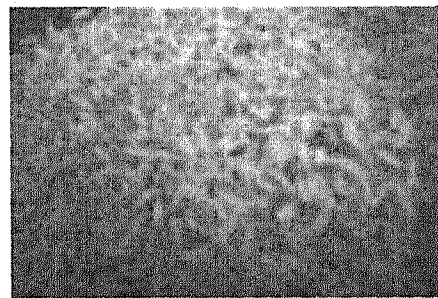
2 田植え風景



3 苗運び



【カオニャオ】



次に、日本とラオスの子どもたちの実態調査の結果を発表し、日本とラオスの類似点や相違点を考えさせた。

<アンケート内容と結果>

質問	①今大切なものは何ですか?		②人生で大切なものは何ですか?	
回答	日本 (中1)	ラオス (小4・5)	日本 (中1)	ラオス (小4・5)
1位	命	両親からのプレゼント	人間関係	家族
2位	家族	両親からの愛情/ 友情(同数)	お金	
3位	友達	両親と一緒に暮らすこと	命	
4位	ゲーム	良い成績を取り続けること	家族/食糧/ 仕事(同数)	
5位	本	病気のときの両親からの介抱	家	

ここで、グループワークの時間を与え、各グループに与えた課題内容と併せて、「調べたこと」「わかったこと」「知りたいこと」「感じたこと」について意見交換をして整理させた。その後、グループごとにワークシートにまとめた上で発表させていき、他グループとの関連性についても考えさせた。

どのグループの発表にも、制度や人材、設備面等で日本との差が大きいので改善策を考えたいという内容が盛り込まれていた。全グループの発表後、正解がないことを補足説明して、「他者理解」や「多様性の理解」について考えさせた。

最後に、文化祭で行われる合唱コンクールの課題曲『この星に生まれて』を、歌詞の意味をしっかりと考えながら全員で歌い、文化祭での企画発表との関連性を持たせた。

『この星に生まれて』 杉本竜一：作詞・作曲 1996

どんな言葉で飾るよりも 生きるちからを持ちつけて
はるかな空には 虹も輝くから つよく、つよく、歩きつけて
河はゆるやかに 時を旅する 広い宇宙の 風に乗るながら

Dreams come true together 夢をすてないで
Dreams come true together かならず叶(かな)うから

谷間の小さな 白百合でも 冬を耐えぬき 花を咲かす
何かを探して この星に生まれた つよく、つよく、愛抱きしめて
雲はおだやかに 海へ旅する 広い宇宙の 風に乗るながら

Dreams come true together 愛をすてないで
Dreams come true together かならず叶うから

Dreams come true together 夢をすてないで
Dreams come true together かならず叶うから

4時限目：【「幸せ」になるには？】

前時までの授業内容のおさらいをしてから、生徒一人ひとりに『「幸せ」の定義』について考えさせた。もちろん、正解はないので、自由に考え作文に書かせた。ただし、より具体的に生徒が取り組めるよう、以下2点についての意見を述べさせた。また、この作文を文化祭で展示する旨も伝えておいた。

<作文題材内容>

- ①自分が「幸せ」になるためには？
- ②世界が「幸せ」になるためには？

生徒作文より

- まずは戦争をやめること。なぜ戦争をするのか、意味がわからない。
- 核兵器、暴力、いじめをなくす。
- 物を無駄使いしない。
- 自分も世界も、まずは教育をしっかり受けてから社会へ出ること。そして、家族をつくること。
- 募金をしたり、ペットボトルのキャップを集めてワケチンを送ること。
- 人材派遣や資源供給などの国同士の協力が必要。
- お金というものを無くして、原始時代のような生活をすればいい。
- 自分が幸せになるにはお金をたくさん貯めることが大事だけど、人間ひとりでは絶対生きていけない。
- 家族全員が元気で楽しく過ごせることが、自分にとって幸せになる。世界中の家族がそう思えるようになって欲しい。
- 世界中の人々が偏見や差別をせず、笑顔で毎日を送ることができれば幸せになる。
- たとえ貧しくても、大切な人やものがあればみんな幸せになる。
- 人間は欲しい物がいくら手に入っても満足しない。つまり、幸せはお金や物ではなく、人間同士の触れ合いによって生まれる結びつきや愛情があればあるほど幸せになれる。
- 僕にとっての幸せとは、生きているということ。

(4) 授業実践を終えて

『幸せの定義』という、あえて抽象的な題材を取り上げたのには3つの目的があった。まず、6年間かけて国際理解や開発教育の授業を続けていくことである。案の定、今回の授業だけでは消化不良であり、生徒たちは未知だったことを知るきっかけができた程度だったが、未知の世界を知り、考える時間を作り続けていくことが学習である。

次に、自分の将来像を考えながら、日々の生活を送って欲しいという思いである。「人間ひとりでは生きていけない」という生徒の作文が印象的だったが、その思いをみんなが常に持ち続けて欲しいと願っている。

最後に、私自身が何年かけてでも勉強し続け、生徒たちだけにとどまらず、一人でも多くの方々に知って、考えて、実行していただけるような機会を増やしたいと思っている。その手始めとして、文化祭のクラス企画を「ラオス」としたが、当日は学年閉鎖により発表できなく残念だったが、今後への期待が増して楽しみでもある。

(5) 参考文献(引用文献・参考資料)

- 『でっか字 コンパクト世界地図帳』 昭文社 2003
- 『旅の指さし会話帳 ラオス』 亀田正人 情報センター出版局 2005
- 『ラオスの開発と国際協力』 西澤信義・古川久継・木内行雄 めこん 2003
- 『ラオス少数民族の教育問題』 乾美紀 明石書店 2004
- 『「はかる」ことが暮らしに与える影響』 松本悟・東智美・木口由香 メコン・ウォッチ 2009

(6) 使用教材

- ラオス国旗、文字、紙幣、地図
- 現地語書籍(中学数学教科書、単行本「ドラえもん」)
- アンケート結果(日本 v.s. ラオス)
- CD(『この星に生まれて』 杉本竜一:作詞・作曲 1996)